

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と言葉	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 柳田 真理子	当該科目に関する実務経験 保育士
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> ・ 「言葉」の特性と「言葉」における保育者の役割の重要性を学び、保育内容「言葉」の意義を理解し、保育士に要される知識や留意、配慮すべき内容を習得する。 [授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児が言葉を獲得する過程を理解し、発達段階を踏まえた保育の内容やその指導の実践。 ・ 「こどもの生活と言葉」の授業を通し、保育所保育指針の5つの領域の保育内容が「養護と教育」とが関連し合い、総合的に展開することを深く理解する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが生活や遊びにおいて様々な体験を通し総合的に育っていくことを学び、保育の実践の中での「言葉」の指導、配慮、留意点など専門性を習得する。 ・ 「生きる力」の基礎とも言える「言葉」の獲得や発達過程の他、保育士として、「人間と言葉」についての専門的な知識や理解を習得する。 			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1、 保育内容「言葉」～こどもと言葉を育む保育士に～ 2、 保育内容「領域：言葉」について～内容やねらいを学ぶ～ 3、 子どもの言葉の発達～めばえから表現ができるようになるまで～ 4、 子どもの言葉と環境～保育者として言葉を育む環境づくり～ 5、 言葉を育む保育者の関わり ①0～2歳児 基本姿勢 6、 言葉を育む保育者の関わり ②3～6歳児 言葉の育ちの連続性 7、 言葉の発達が気になる子ども～保育者としての配慮・指導・支援 8、 保育者の言葉～言葉を育む保育者として～ 9、 児童文化とは 児童文化財①「絵本」：1 10、 児童文化財①「絵本」：2 11、 児童文化財②「素話・紙芝居・言葉遊び・伝承遊び・詩の世界」 12、 児童文化財③「ペープサート・パネルシアター・エプロンシアター・人形劇」 13、「言葉」の指導計画の作成～事例から学ぶ～ 14、 言葉と国語教育～小学校教育へ～ 15、 期末試験			
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業テキスト：「保育者をめざす人の保育内容「言葉」 (駒井 道子 編) ・ 参考テキスト：「保育内容・言葉」(岸井 勇雄・武藤 隆・柴崎 正行 監修) ・ 参考テキスト：「にほんご」：(松居 直 著) 			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記及び実技試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 			